

# 養老町学校のあり方に関する検討について

## 住民説明会資料

= 本日のプログラム =

1. あいさつ
2. 養老町学校のあり方に関する検討の説明
3. 質疑応答

▼学校の再編に関するご意見がある方は、  
下記の二次元コードまたはURLからお書きください。



<https://logoform.jp/form/piKp/1226829>

1. 検討の経緯	5
2. 養老町の小学校の現状	8
3. 養老町が目指す学校のあり方	15
4. 小学校の適正規模、適正配置について	24
5. 今後の進め方	31

養老町学校のあり方検討委員会

委員長 様

養老町教育委員会

教育長 森島 恵照

## 諮問書

養老町学校のあり方検討委員会設置要綱第2条により、下記の事項について検討の上、答申いただきたく、諮問いたします。

### 記

#### 1 諮問事項

(1) 児童数の推移を踏まえた小学校の適正規模、適正配置について

・ 今後の児童数の推移を踏まえた学校数と配置

(1) については、教育的視点、地理的条件や地域連携の視点、学校施設の適正化の視点、まちづくりの視点等を踏まえ、総合的に検討してください。

(2) (1)を踏まえた本町小中学校の将来像について

(2) については、学校を統廃合する場合や小規模校を存続させる場合が想定されますが、小中一貫校、義務教育学校、小規模校の良さを生かす等、様々な学校のあり方が考えられる中で、子どもたちの成長と未来につながる本町の学校の将来像を検討してください。

#### 2 諮問理由

本町は、養老町まちづくりビジョンや養老町教育大綱に掲げた理念をもとに、「ひとりひとりが輝く教育」の具現をめざして学校教育に取り組んできました。平成26年度からは順次コミュニティスクールに移行し、平成29年度からは町内すべての学校(小学校7校、中学校2校)が「地域とともにある学校」として教育活動を展開しています。学校は地域づくりの核であり、地域と連携した学校づくりが教育活動の充実や児童生徒の成長につながっています。

しかし、想像以上の児童数の減少により、同一学年に複数の学級があった小学校が単学級(5小学校)となり、学校規模は縮小しました。令和6年度には町内で初めて複式学級ができました。このような状況下、一定規模の児童数の集団を確保し、バランスのとれた教職員配置を進めたいうえで、多様な見方や考え方が交流できる学校教育環境を求める保護者の要望が高まっています。

こうした本町児童数の推移と町内各地域の状況を踏まえ、本町の望ましい学校教育環境について検討していただきたく諮問するものです。

令和7年8月20日

養老町教育委員会  
教育長 早崎 京子様

養老町学校のあり方検討委員会  
委員長 安田 和夫 

## 望ましい学校教育環境について（答申）

令和6年6月に「養老町学校のあり方検討委員会」が設置され、町教育長より本検討委員会に対し、本町がめざす学校像について諮問を受けました。本検討委員会は、本町の子どもたちが学ぶ環境として、どのような学校環境が望ましいかを、これまでに7回にわたる協議を重ねてまいりました。また、地域住民全体で本町のめざす将来の学校のあり方を考えていただくために、「教育シンポジウム」を開催し、さらには保護者、地域住民、教職員、保育従事者、児童生徒を対象にアンケート調査を実施し、その回答結果も踏まえて、評価分析をしてまいりました。

この度、以下の事項について、とりまとめ答申いたします。

### 1 諮問事項について

#### (1) 児童数の推移を踏まえた小学校の適正規模、適正配置について

今後小学校7校を存続する場合は、全ての学校において小規模校となります。集団で学べる環境を整えるため、これまでにICTの活用等によって合同学習や交流学習を実施してきましたが、様々な人のニーズに対応し、多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくことを実現するには、全校が小規模校になるとその実現可能な範囲に限界があります。子どもたちの学校教育の充実や教育水準の維持向上の観点から、1学年が2学級以上で構成される「望ましい学校規模」とするため、中学校区で統合すべきと考えます。中学校区で統合することは、地理的条件や地域連携の視点からも適切であると考えます。また、小学校統合に際しては、本町が大切にしてきた人権教育を充実させると共に、それぞれの学校の伝統を継承しつつ新たな学校を目指すことに意義があると考えます。

#### (2) (1) を踏まえた養老町小中学校の将来像について

検討委員会での協議やアンケート結果を踏まえ、今後、本町の学校教育において大事にしたい将来像について協議した結果、

- ① 多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくこと
  - ② のびのびと過ごせる安心・安全な環境であること
  - ③ 学校・先生・仲間(上級生など)・ふるさと養老へのあこがれをもつ
- の3つの願いを導き出しました。

統合にあたっては、子どもたちの「みんなと楽しく過ごしたい」という思いを大切にしながら、集団の中で学び合い、わくわくできる学校、町民の願いのこもった学校を提案すべきだと考えます。

今まで、本町では、すべての学校が、コミュニティ・スクールのよさを生かした地域と共にある学校づくりを目指してきました。統合後は、このことを大切にすると共に、「養老町はひとつ」としての教育理念のもと、高田中校区(小1、中1)と東部中校区(小1、中1)が「横のつながり」を深めていくことを期待しています。

また、「縦のつながり」として、本町の学校教育の願いを大切にするために、小中一貫教育を進めていただくことを提案します。義務教育9年間の学びを系統立てたものとし、本町の特色ある教育を一貫して進めることができるように取り組んでいただきたいと思います。こうした横と縦のつながりを大切にすることで、本町が大切にしてきた「人権学習」や「ふるさと学習」がより充実されていくことを期待しています。また、今まで以上に保育園・こども園及び高校との接続についても併せて考える必要があると考えます。

価値観が多様化している現在、教育は学校の中で完結するものではありません。10年後、20年後の本町の学校の姿を教職員、保護者、地域住民が共有し合い、一歩先に同じ景色を描きつつ、子どもたちの周りにいるすべての大人たちが、「教育の当事者」としての自覚の中で働きかけていくことが重要だと考えます。そのためには、今後も、日本の学校教育のあり方の変化や本町の社会的動向を見極めつつ、新たな学校づくりを検討、着手する可能性を見通し、これまで以上に町民の総意をもって学校のあり方を熟議していくことが望まれます。

### 2 統合の進め方と新たな学校づくりと実施時期について

統合の進め方や新たな学校づくりなどは、熟議を重ね、連携と協働のもと実現すべきであるため必要な協議組織「(仮称)養老町立小学校再編準備委員会」を速やかに設置し、協議・調整を図るべきだと考えます。

統合の実施期間は、今の児童が新体制の小学校で教育が受けられるよう、遅くとも令和12年度の開校をめざして検討を進めていただきたいと思います。

### 3 おわりに

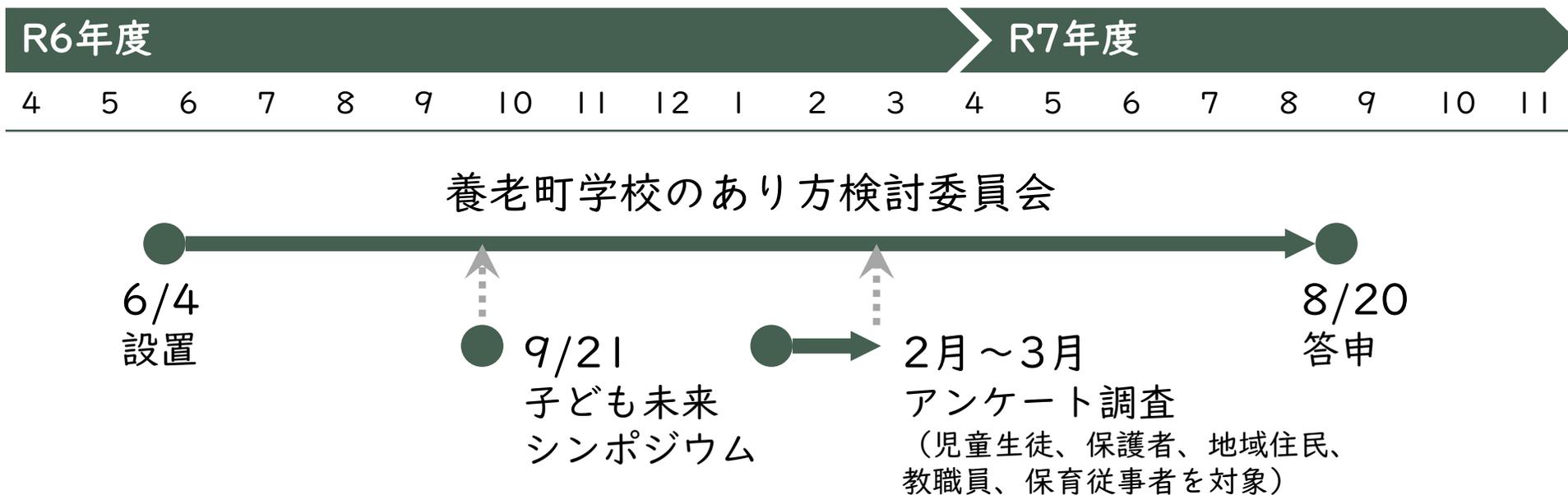
この答申を踏まえ、将来を担う子ども達の未来のため教育委員会部局と町長部局が丸となって取組を進めていただき、統合後の学校においては、保護者、地域住民が主体的に学校づくりに関わっていただけるような環境を整えていくことを求めます。また、統合に関する決定事項は、積極的に保護者や地域の皆さんへ情報提供を図ることで不安解消に努めていただきたいと思います。

# 1. 検討の経緯

---

## ■ 検討の経緯

本町における児童数の減少の推移を踏まえ、より良い教育環境の構築と質の高い学校教育の実現を目指して、将来を展望した学校のあり方について幅広い見地から検討し、方向性を見出すために、「養老町学校のあり方検討委員会」を設置しました。これまでに、7回にわたる会議やシンポジウムの開催やアンケート調査の実施などを通じて検討を進め、「養老町における将来の望ましい学校のあり方」について令和7年8月20日に答申が出されました。



## ■ 検討の経緯

### 養老町学校のあり方検討委員会

#### 【構成メンバー（17名）】

- ・ 学識経験者・ 議会代表・ 区長代表
- ・ 校長会代表・ こども園・ 保育園代表
- ・ 保護者代表・ 一般公募・ 社会教育委員



### 子ども未来シンポジウム

（令和6年9月21日開催）

#### 【プログラム】

##### 第1部 ～事例発表～

- ・ 義務教育学校 大垣市立上石津学園
- ・ 海津市立海津小学校

##### 第2部 ～パネルディスカッション～



## 2. 養老町の小学校の現状

---

## 2. 養老町の小学校の現状

### ■ 養老町の小学校

本町には、現在7校の小学校があります。  
これらの学校は、いずれも完成から40年以上が経過しています。

	建築年度	築年数	延床面積 (校舎)
養老小	昭和41年度	59年	6,791 m <sup>2</sup>
広幡小	昭和49年度	51年	2,181 m <sup>2</sup>
上多度小	昭和53年度	47年	3,511 m <sup>2</sup>
池辺小	昭和58年度	42年	4,126 m <sup>2</sup>
笠郷小	昭和60年度	40年	4,875 m <sup>2</sup>
養北小	昭和53年度	47年	3,535 m <sup>2</sup>
日吉小	昭和40年度	60年	3,169 m <sup>2</sup>



### ■校舎における大規模改修・耐震補強の実施状況

養老小学校・日吉小学校において、老朽化に対する大規模改修が平成7年度前後に実施されています。

また、池辺小学校・笠郷小学校を除く5校においては、旧耐震基準で建てられた建物であり、平成21～23年度に耐震補強が実施されています。

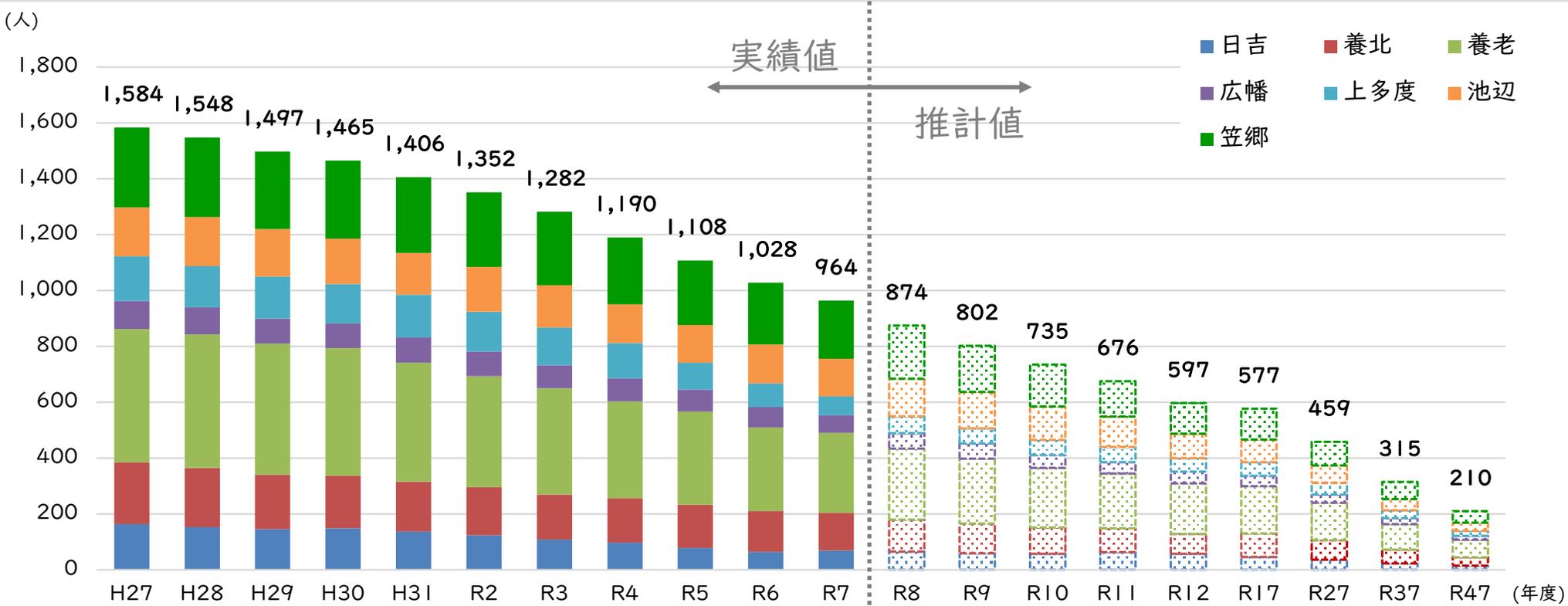
今後も予防保全的に長寿命化対策を行い、建物を80年使用することを目指した場合でも、**20～30年後に7校の建替え時期が一斉に到来します。**

学校名	建築年度	校舎大規模改修	校舎耐震補強
養老小	昭和41年度	平成5～8年度	平成21～22年度
広幡小	昭和49年度	-	平成22年度
上多度小	昭和53年度	-	平成22年度
池辺小	昭和58年度	-	-
笠郷小	昭和60年度	-	-
養北小	昭和53年度	-	平成23年度
日吉小	昭和40年度	昭和63年度	平成21年度

# 2. 養老町の小学校の現状

## ■ 児童数の推移と予測（町全体）

令和7年度における町全体の児童数は、平成27年度と比較して約6割まで減少しています。さらに、令和12年度には現在の7割程度にあたる597名まで、令和47年度には210名まで減少すると見込まれています。



(※R17以降は、国土数値情報 250mメッシュ別将来推計人口データ(R6国政局推計)を基に算出)

## 2. 養老町の小学校の現状

### ■ 児童数の予測（小学校別）

広幡小学校、日吉小学校では、令和7年度現在で複式学級が発生しています。今後、児童数の減少が進むことで他の小学校においても複式学級が発生することが予測されます。

中学校区	学校名	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R17	R27	R37	R47
高田中学校	養老小	287	254	232	213	196	181	169	134	91	62
	養北小	134	114	106	94	85	71	84	70	49	31
	日吉小	70(1)	66(1)	60(1)	58	64	58	47	37	24	15
	計	491	434	398	365	345	310	300	241	164	108
東部中学校	広幡小	63(1)	56(1)	55(2)	46(2)	41(1)	42(2)	37	29	21	14
	上多度小	67	60	54	55	54	48	49	42	28	18
	池辺小	135	135	130	119	109	88	81	62	41	29
	笠郷小	208	189	165	150	127	109	110	85	61	41
	計	473	440	404	370	331	287	277	218	151	102

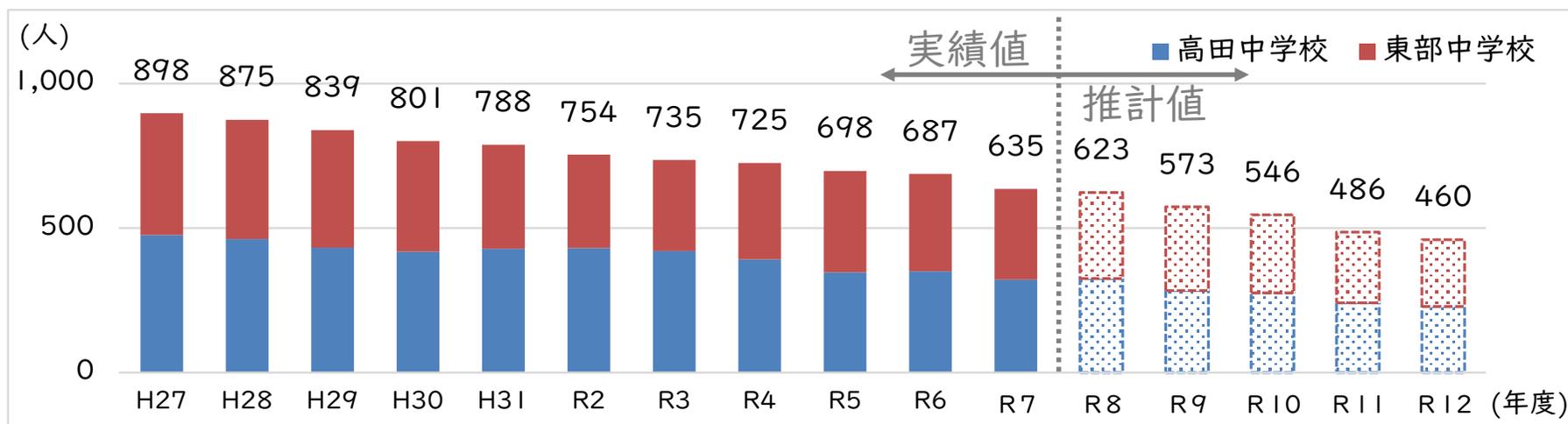
( ) は複式学級※の数 ※複式学級：2つの学年を1つのクラスに編成する学級。  
2学年の合計が15人以下の場合複式化する（1年生を含む学年は8人以下）

## 2. 養老町の小学校の現状

### ■ 生徒数の推移・予測（中学校別）

令和7年度における町全体の生徒数は、平成27年度と比較して約7割まで減少しています。さらに、令和12年度には現在の7割程度にあたる460名まで減少すると見込まれています。

学校名	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
高田中	476	462	432	418	429	431	420	392	347	350	322	325	283	276	241	228
東部中	422	413	407	383	359	323	315	333	351	337	313	298	290	270	245	232
計	898	875	839	801	788	754	735	725	698	687	635	623	573	546	486	460



### ■小規模な学校の一般的なメリットとデメリット

本町では、児童数の減少により、全ての小学校が“小規模校”となることが見込まれます。下表に記載の小規模校のメリットとデメリットを踏まえ、本町が目指す教育の実現に向けた学校のあり方を検討する必要があります。

#### メリット

- 児童の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- 学校行事や部活動等において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。
- 児童相互の人間関係が深まりやすい。
- 異学年間の縦の交流が生まれやすい。
- 保護者や地域社会との連携が図りやすい。

#### デメリット

- 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。
- クラス替えが困難なことなどから、人間関係が固定化しやすい。
- 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。
- PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

### 3. 養老町が目指す学校のあり方

## ■近年の教育に関する国の動向

令和の日本型学校教育は、個別最適な学びと協働的な学びを両立させ、学習者用端末を駆使しながら未来社会で活躍できる人材を育成することを目指しています。

### 個別最適な学び

児童生徒一人ひとりの理解度・興味・ペースに合わせた効果的な学び方

一体的に充実

### 協働的な学び

他者と対話・協力しながら、共に課題を解決したり、知識を深めたりする学び方

## ■ 養老町が目指す学校教育

養老町は「ひとりひとりが輝く教育」を掲げ、人権教育を重視しています。児童生徒には主体性の育成が課題であり、園・学校は個を尊重し、挑戦できる環境づくりが求められます。この教育は、子どもたちが安心して夢を描き、未来に向かって自立する力を育むことを目指しています。

○ 養老町教育大綱（令和7年4月）

【基本理念】

**ひとりひとりが輝く教育**

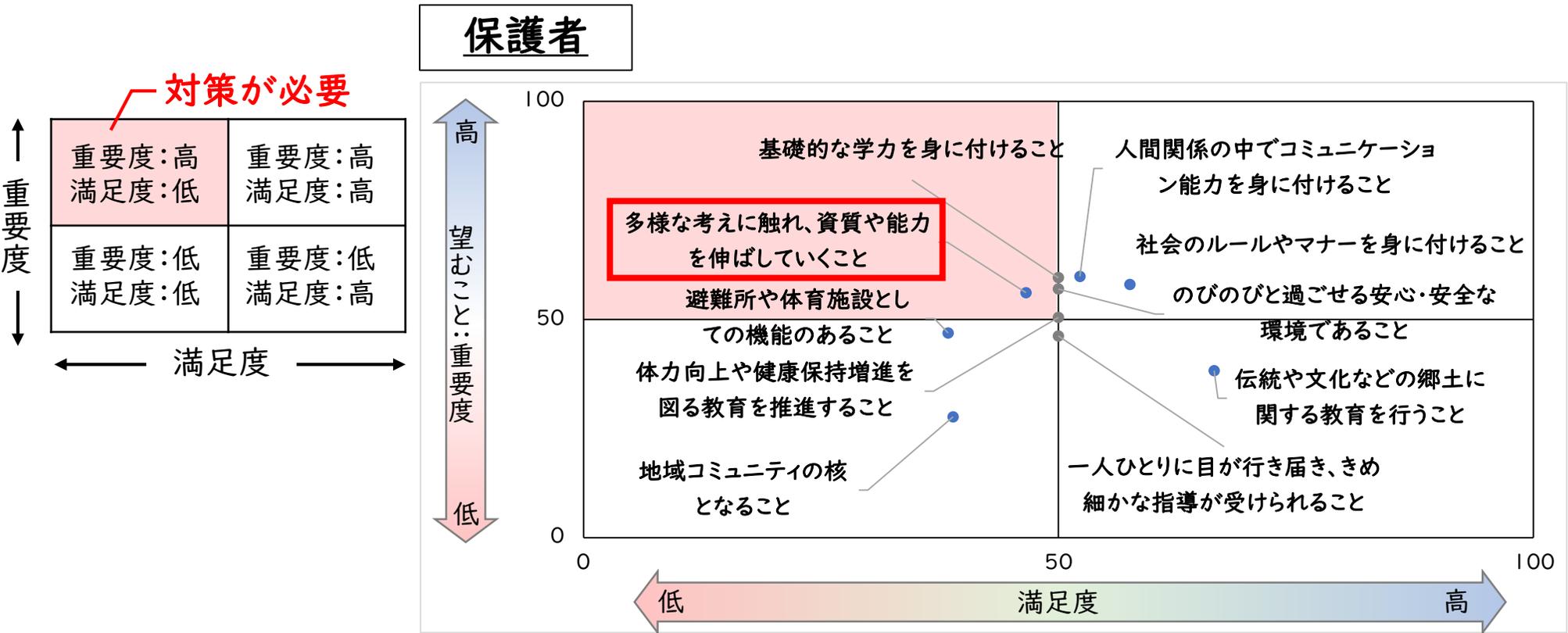
【めざす教育の姿】

**人権教育を基盤にたくましくよりよい未来を築いていく力を培う教育の推進**

# 3. 養老町が目指す学校のあり方

## ■ 学校や教育に望むこと（アンケート結果より）

保護者では、「多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」については重要度が高い一方で、満足度が低いため、対策が必要です。



満足2点、やや満足1点、どちらでもない0点、やや不満-1点、不満-2点  
 そう思う2点、ややそう思う1点、あまりそう思わない-1点、そう思わない-2点 で集計し、偏差値を算出した。

# 3. 養老町が目指す学校のあり方

## ■ 学校や教育に望むこと（アンケート結果より）

地域住民では、「多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」に加えて「人間関係の中でコミュニケーション能力を身に付けること」についても重要度が高い一方で、満足度が低いため、対策が必要です。

### 地域住民

↑ 重要度 ↓

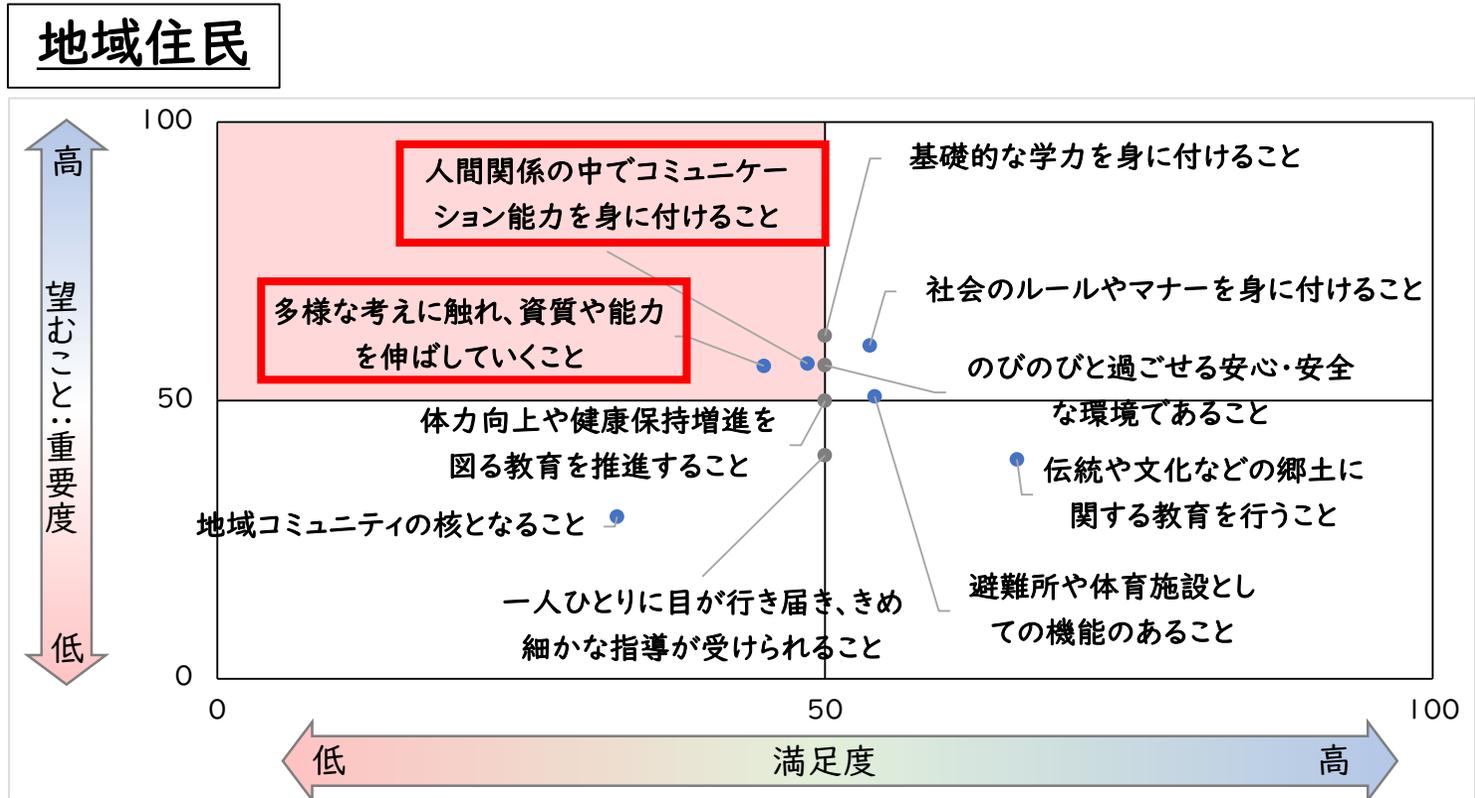
← 満足度 →

重要度: 高 満足度: 低	重要度: 高 満足度: 高
重要度: 低 満足度: 低	重要度: 低 満足度: 高

↑ 重要度 ↓

← 満足度 →

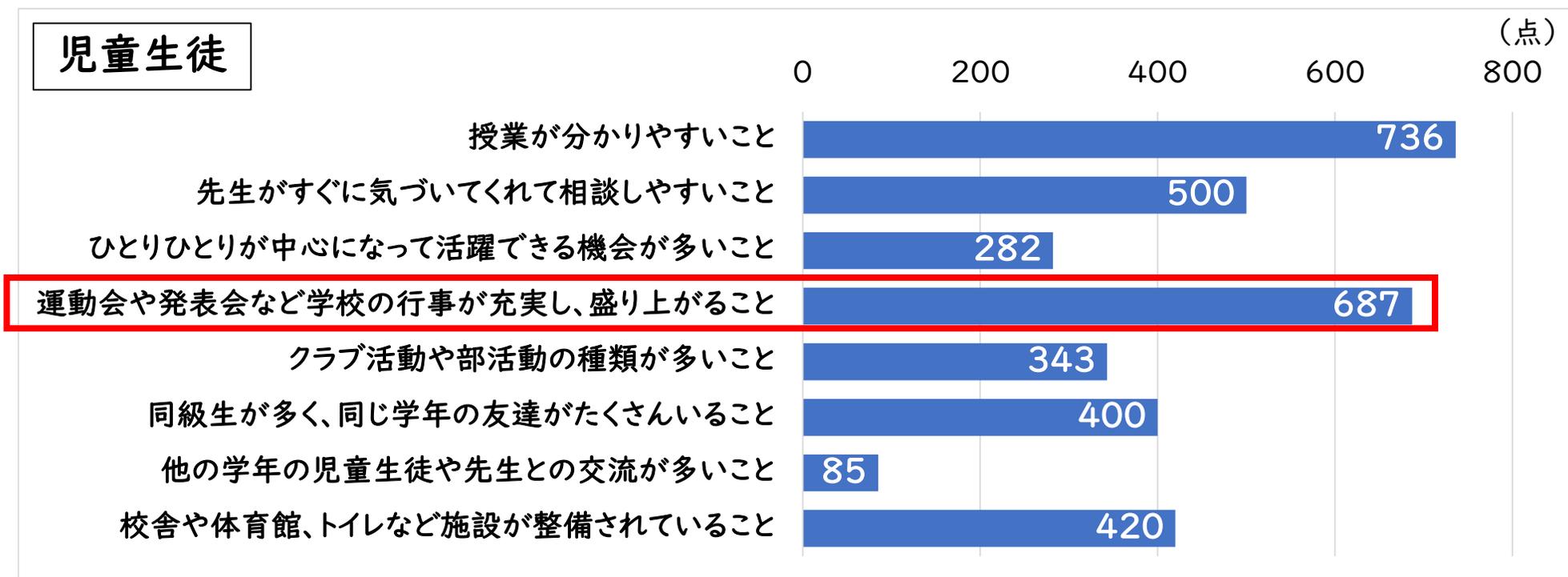
対策が必要



## ■ 学校や教育に望むこと（アンケート結果より）

「行事が充実し、盛り上がること」を望む意見が多く寄せられました。  
これを実現するためには、現状のままでは、児童数の少なさにより**集団教育活動に制約が生じやすい**ことが課題として挙げられます。

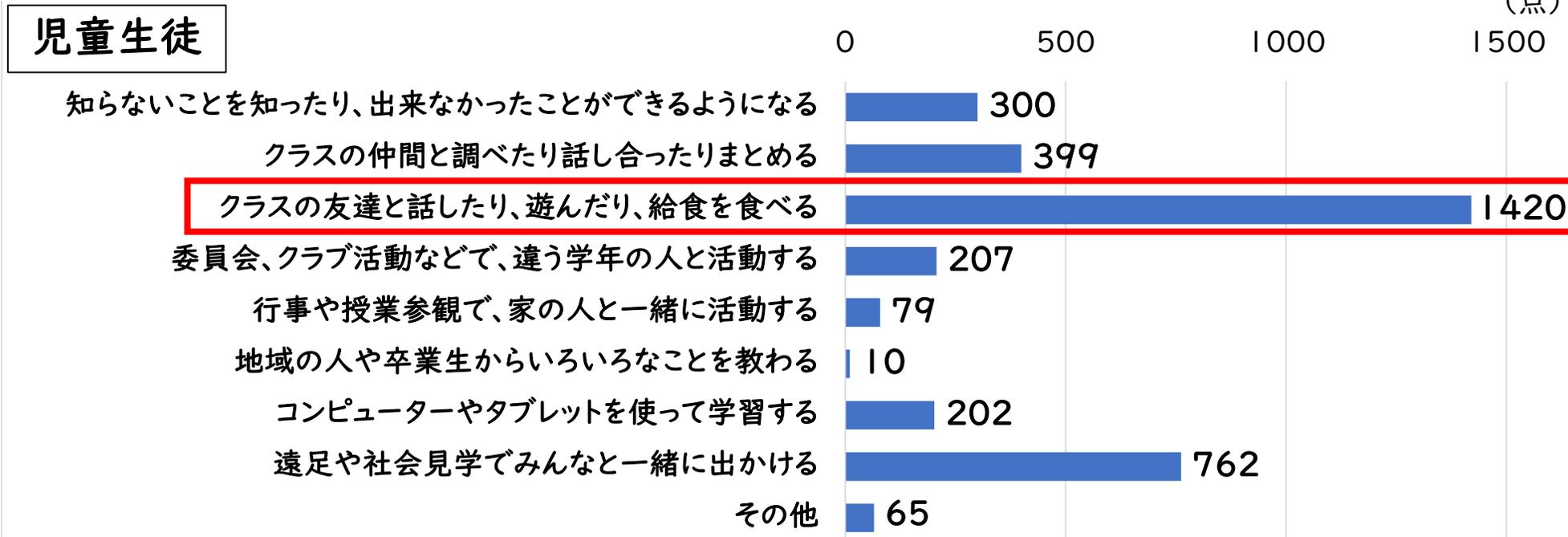
### 【問】望む学校



## ■ 学校や教育に望むこと（アンケート結果より）

「クラスの友達と話したり、遊んだり、給食を食べたりすること」を楽しみにしているという意見が多く見られました。しかし、これを実現するためには、現状のままでは児童数の少なさにより、人間関係の固定化や男女比の極端な偏りが生じる可能性がある点が課題として挙げられます。

### 【問】学校で特に楽しみにしていること



## ■ 今後、養老町の学校教育において大事にしたい3つの願い

学校のあり方検討委員会での協議やアンケート結果を踏まえ、今後、本町の学校教育において大事にしたい3つの願いが導き出されました。

- 1 多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくこと〈育みたい資質能力〉
- 2 のびのびと過ごせる安心・安全な環境であること〈土台となる環境〉
- 3 学校・先生・仲間（上級生など）ふるさと養老へのあこがれをもつ  
〈これからの学校の未来へつなぐ〉

#### ■ 養老町の小学校における課題やニーズへの対応

- ✓ 児童数減少への対応
- ✓ 将来世代が負担するコストの軽減
- ✓ 本町として目指すべき教育の実現
- ✓ 保護者や地域住民、児童生徒から望まれる教育の実現



これら課題やニーズへ対応するためには、

学校を適正な規模で運営していくことが求められます。

その手法の一つとして、**小学校の再編を進める必要**があります。

## 4. 小学校の適正規模、適正配置について

# 4. 小学校の適正規模、適正配置について

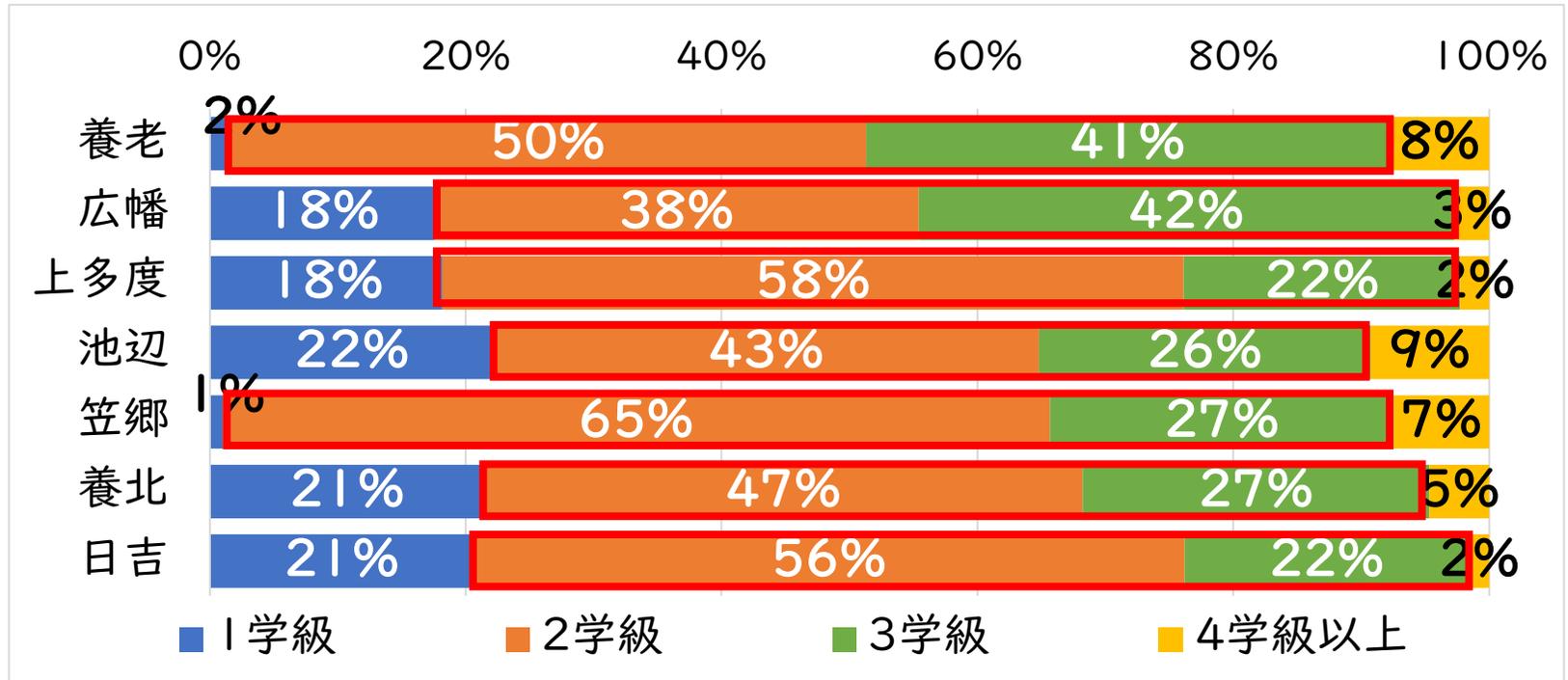
## ■ 養老町における小学校の適正規模・適正配置

保護者・地域住民ともに 2～3学級を望む割合が高く、国が定める望ましい規模（1学年2～3学級）と同等の規模が望まれています。

### アンケート結果

【問】1つの学校の1学年あたりの学級数として、望ましいと思うもの

#### 保護者



# 4. 小学校の適正規模、適正配置について

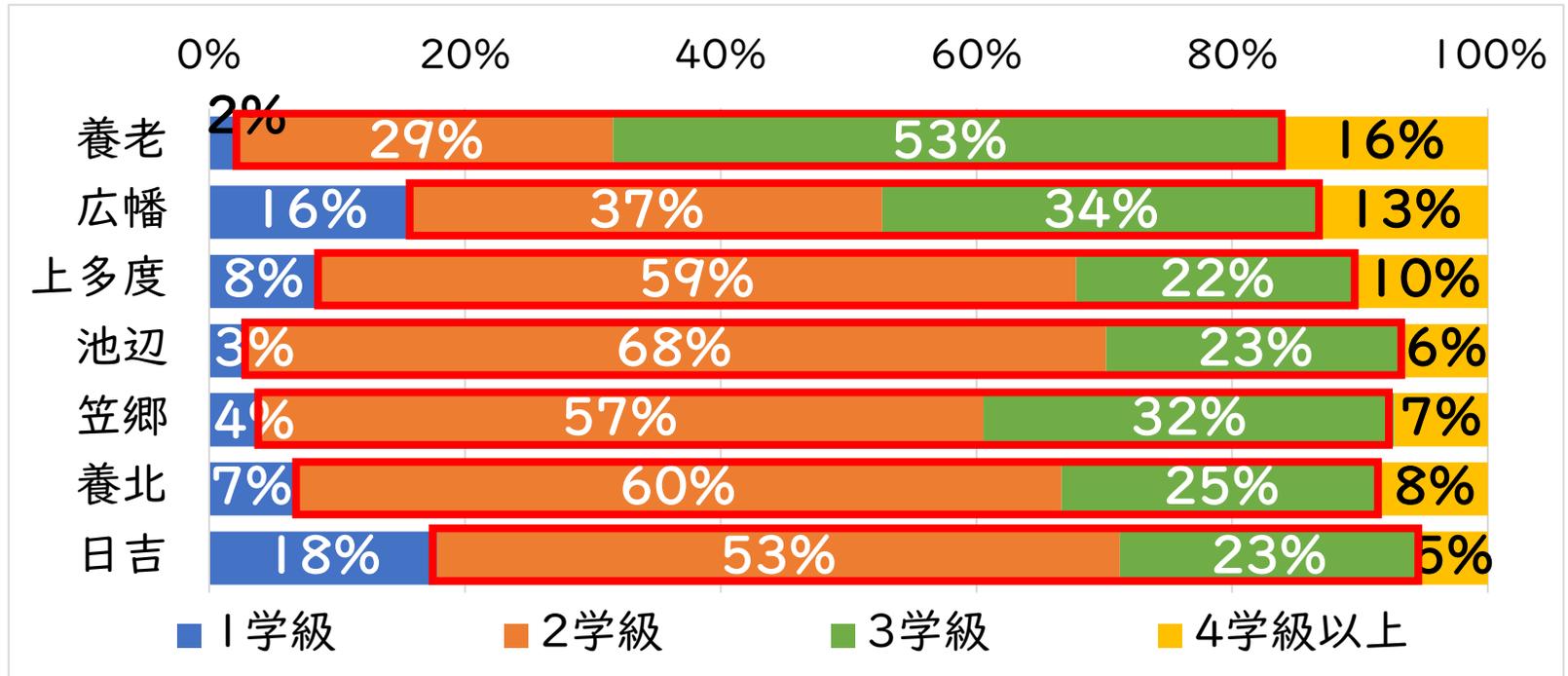
## ■ 養老町における小学校の適正規模・適正配置

保護者・地域住民ともに 2～3学級を望む割合が高く、国が定める望ましい規模（1学年2～3学級）と同等の規模が望まれています。

### アンケート結果

【問】1つの学校の1学年あたりの学級数として、望ましいと思うもの

#### 地域住民



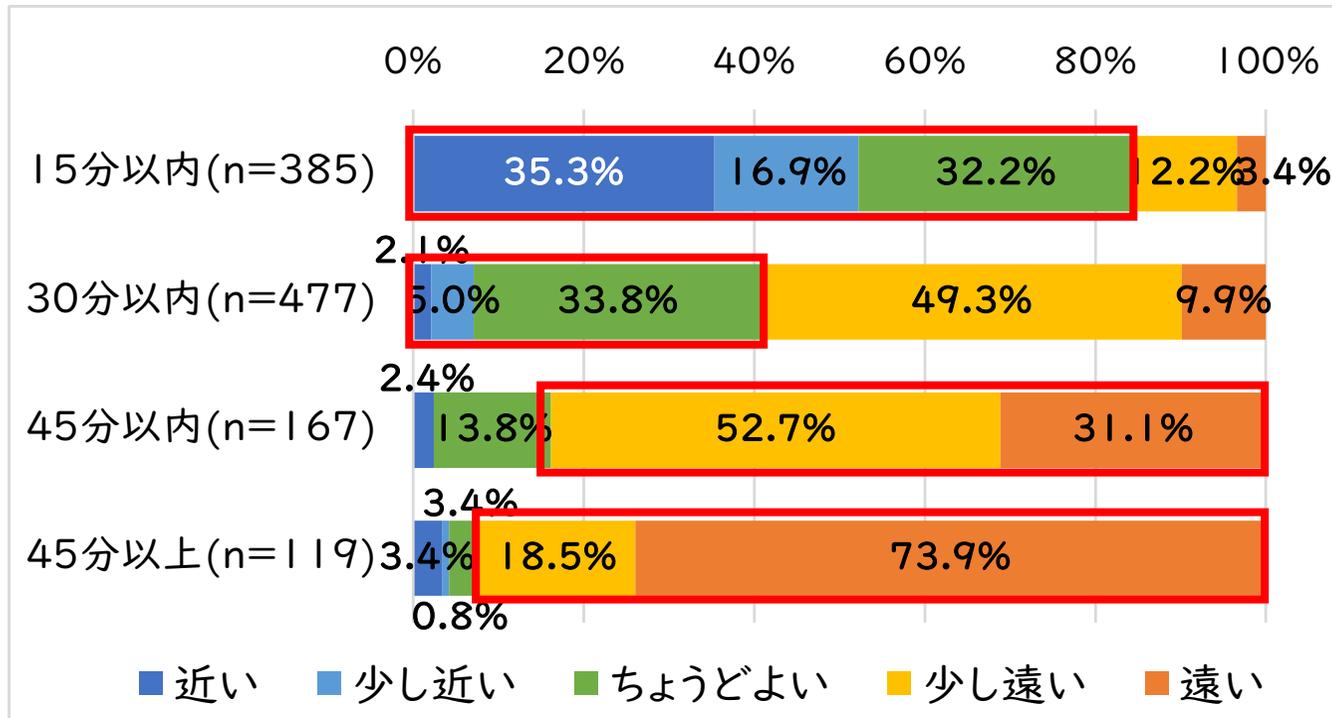
## ■ 養老町における小学校の適正規模・適正配置

通学時間が30分以内であれば、遠いと感じる児童生徒が比較的少なく、児童生徒に大きな負担がかからないことが分かります。

### アンケート結果

【問】自宅から小学校までの時間(徒歩) × 小学校までの距離について思うこと

#### 児童生徒



## ■養老町における小学校の適正規模・適正配置

### ○再編によって目指す小中学校の将来像

#### 横のつながり

- コミュニティ・スクールのよさをいかした地域と共にある学校をつくること
- 「養老町はひとつ」という教育理念のもと、中学校区同士のつながりが深まること

#### 縦のつながり

- 義務教育である9年間の学びを系統的に構築し、本町の特色ある教育を一貫して推進するため、小中一貫教育の取組を進めること

➡ 横と縦のつながりを大切にする中で、  
「人権学習」や「ふるさと学習」がより充実すること

# 4. 小学校の適正規模、適正配置について

## ■ 適正規模・適正配置まとめ

### ○ 適正規模

アンケート結果や国の基準等を踏まえると、**1学年あたり2学級以上**となる体制を整えることが求められています。1学年が2学級以上となる体制を実現するためには、**町全体で小学校を2校に再編**する必要があります。



### ○ 適正配置

再編にあたっては、児童の通学時間や小中一貫教育の推進等を考慮して、**現在の中学校区を基準として統合を進める**ことが望ましいと考えています。



### ■ 小学校の再編にあたって配慮すること

- ✓ 各学年が集まる **合同授業や交流活動等を計画的・継続的に実施**する。
- ✓ **子どもたちの不安や人間関係等の心配が解消**されるように努める。
- ✓ 子どもたちが一緒になってよい学校をつくっていかこうとする動きをつくり、「統合ギャップ」→「統合チェンジ」へ **子どもたちの意識を高める**。
- ✓ 子どもたちが **わくわく感**を持って **期待が高まる**ように努める。

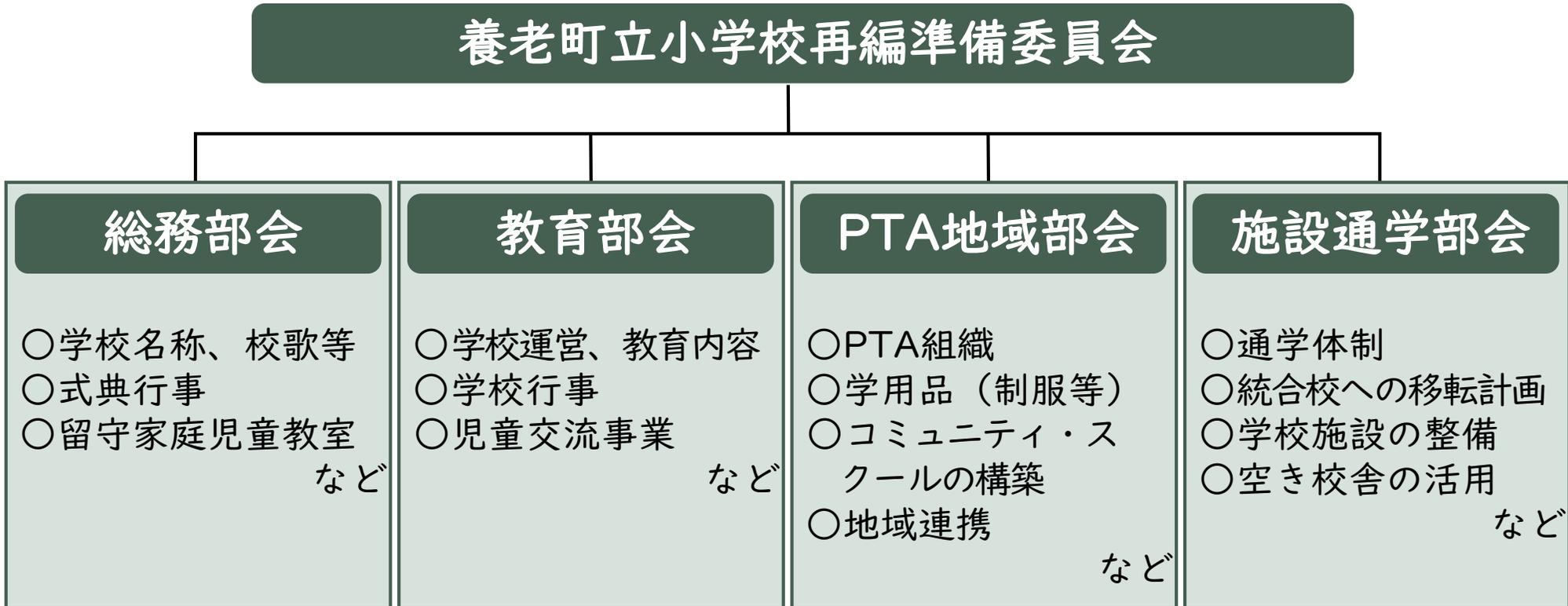


## 5. 今後の進め方

---

## ■養老町立小学校再編準備委員会の設置

小学校の再編や新たな学校づくりに関しては、4つの部会に分かれて各項目について検討を進めてまいります。各部会で決定された内容は「養老町立小学校再編準備委員会」に報告しながら、委員会内で熟議を重ねてまいります。



## ■開校に向けた検討スケジュール

再編の実施時期については、今の児童が新体制の小学校で教育を受けられるよう、遅くとも令和12年度の開校を目指して検討を進めてまいります。  
また、再編にあたっては、随時情報を発信するとともに、保護者や地域住民の皆様のご意見を伺いながら丁寧に進めてまいります。

